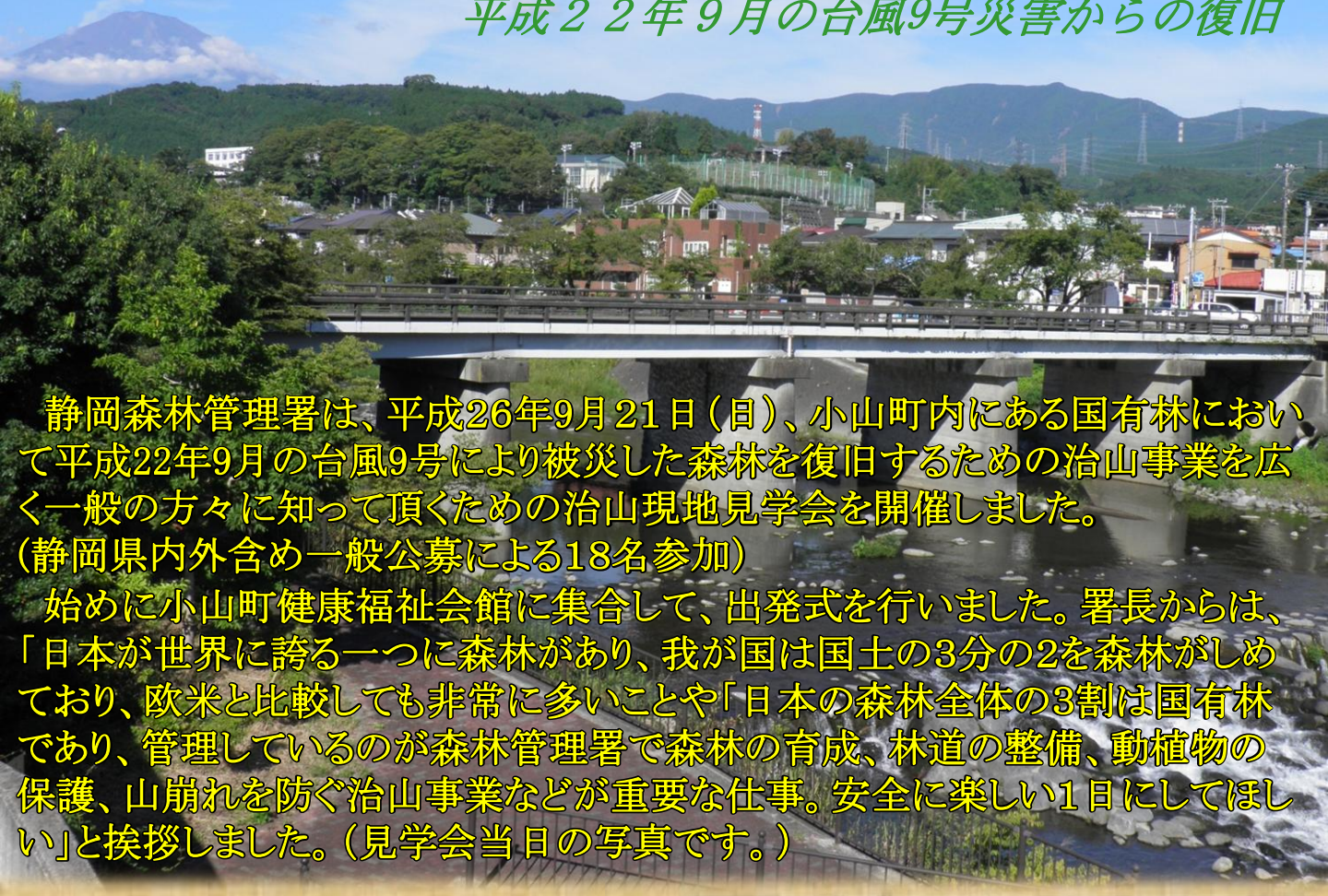
治山現地見学会
「鮎沢川の源流を訪ねて」

平成２２年９月の台風9号災害からの復旧



静岡森林管理署は、平成26年9月21日（日）、小山町内にある国有林において平成22年9月の台風9号により被災した森林を復旧するための治山事業を広く一般の方々に知って頂くための治山現地見学会を開催しました。
（静岡県内外含め一般公募による18名参加）

始めに小山町健康福祉会館に集合して、出発式を行いました。署長からは、「日本が世界に誇る一つに森林があり、我が国は国土の3分の2を森林がしめており、欧米と比較しても非常に多いことや「日本の森林全体の3割は国有林であり、管理しているのが森林管理署で森林の育成、林道の整備、動植物の保護、山崩れを防ぐ治山事業などが重要な仕事。安全に楽しい1日にしてほしい」と挨拶しました。（見学会当日の写真です。）

野沢川

出発式で、平成22年9月台風時の鮎沢川・野沢川の状況を映像を使って紹介しました。参加者からは「川が海のようだった。怖かった」などの声が聞かれました。

参加者は、大型タクシー３台で柳島国有林内の治山現場（柳島地区復旧治山工事）へ移動し、急傾斜地を実際に施工現場まで登り治山現場の様子を間近で見学しました。職員から台風被害箇所の復旧過程を写真等を使用して説明し、治山事業の必要性や効果等の理解を深めて頂きました。また、参加者から鹿の糞を見つけて、鹿がいるのですかという質問もありました。鹿対策を施工してある所を見て頂き鹿対策の重要性についても説明しました。

次に、湯船国有林内の治山現場（湯船地区復旧治山工事）に移動し、急傾斜地を施工現場まで下り治山現場の様子を間近で見学しました。職員から木製構造物の特徴やスコリアの特性について説明し、参加者に実際に見たり、触ったりして頂きました。また、測量体験（宝探しゲーム）・施工体験（丸太筋工）・植樹（コナラの苗）やお昼休みには森林の大切さを分かりやすく説明するための紙芝居を行いました。

【宝永スコリアとは】
・西暦1707年（和暦：宝永4年）の宝永噴火による。

【宝永スコリアの特性】
・表層に堆積しており、斜面では、少しの降雨でも崩れやすい。非常にルーズで粘着力も無く、透水性が良い。

宝の地図を基に宝探しレーダー（コンパス）を使用して測量体験を行いました。始めて測量機器を見る人もいて、最初は難しそうでしたが、職員がやさしく教えたので参加者みんなが宝を探すことができました。

表層の土砂流出を防いで、植物の生えやすい環境をつくるため、丸太筋工（間伐材使用）を施工しました。子供たちは、杭を打つのに苦労していましたが、大人の方は腰が据わっていて慣れた手つきで杭打ちをしていました。

また、横木と杭木をつなぐ作業は、始めは難しいと言っていましたが最後の方で、慣れた手つきで楽しそうに作業を行っていました。

意外とかたいなあ

苗木をまっすぐにして踏み固めるぞ

僕より背が高い・・早く追い越すぞ

これで乾燥しにくくなるよ

ちゃんと育ってくれよ

マットが飛ばないようにちゃんと杭を打たなくちゃ

こっちの苗木のほうが大きいよ！！

無事、治山現地見学会を終了することができました。今回の見学会の目的の一つとして、現在、全国で大災害が各地でおきています。災害がおきた直後は、テレビや新聞報道等で知ることができますが、その後の復旧経過や復旧後の状況が見えてこない事が多くあります。　また、災害直後の状況も年々風化してしまい忘れてしまいます。国有林内で治山事業を行っている静岡森林管理署は、災害の状況・復旧経過や復旧後の状況を広く一般の方々に伝えていくことも重要な事と考え、治山現地見学会を開催しています。参加して頂いたみなさんには、大きな構造以外の簡易な構造の治山事業（丸太筋工・植樹等）も重要であることを理解して頂くとともに、色々と手伝っていただきました。数十年後、子供たちと同じくらいの高さの苗木が大きくなり、みなさんよりずっと大きく成長します。この苗木がたくさんの贈り物を届けられますように大切に育てていきたいと思います。参加者のみなさん一生懸命作業して頂きまして、感謝しています。ありがとうございました。

解散式にあたり、署長より「国有林の色々な仕事」や「治山」を覚えてくれましたか？崩れた森林を復旧するのにも時間がかかりますが、復旧して森林に戻すまでには、もっと長い時間がかかります。『治山』の目的は、崩れないように工事をして、最終的には緑に覆われた強い森林を造ることです。楽しく、理解を深めて頂きありがとうございました。と挨拶し散会しました。